

エアゾール缶等による火災・事故をなくそう

《エアゾール缶等に関わる火災及び事故の発生状況》

(1) 火災の発生状況

エアゾール缶及び簡易型ガスこんろ燃料ボンベ（以下「エアゾール缶等」という。）による火災は、過去10年間で1,053件発生しています。平成25年の129件から減少傾向で推移し、平成29年から令和元年までは100件を下回りましたが、令和3年は122件発生し、令和2年から増加傾向に転じています（図1）。

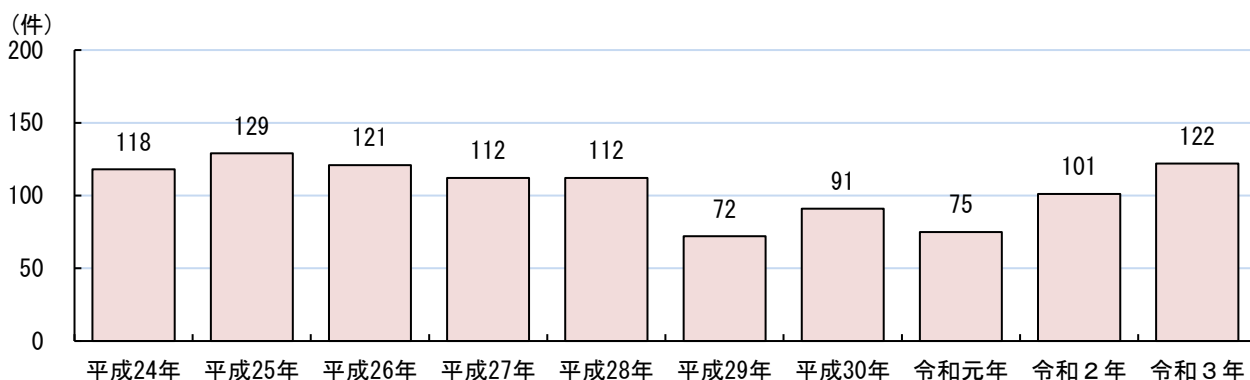


図1 エアゾール缶等による火災発生件数の推移（過去10年間）

令和3年中のエアゾール缶等により、火災に至った主な原因で最も多いのは「構造不適（機器）」の39件（32.0%）で、ボタンガストーチバーナなど、機器側の不具合で簡易型ガスこんろ用燃料ボンベから可燃性ガスが漏洩することなどにより出火したものです。次いで、「穴開け・ガス抜き」の20件（16.4%）で、エアゾール缶等を廃棄する目的で、缶に穴を開けた際に、近くで使用していたガスこんろの炎等により、噴出した残存ガスが引火し出火したものです。

缶の種類別で見ると、簡易型ガスこんろ用ガスボンベが75件（61.5%）でエアゾール缶等関連火災全体の6割以上を占めています。

また、要因別にみると、廃棄方法に係る火災は35件（28.7%）発生し、取扱不適に係る火災は48件（39.3%）発生しています（表1）。

表1 エアゾール缶等による令和3年中の火災発生状況

火災発生要因	合計		缶の種類			死者	負傷者	
			エアゾール缶	簡易型ガスこんろ用燃料ボンベ	その他のボンベ			
合計	122		42	75	5	1	67	
廃棄	穴開け・ガス抜き	20	35	15	4	1	-	21
	ごみ収集車	13		10	3	-	-	-
	その他	2		2	-	-	-	1
取扱不適	装着不良	7	48	-	7	-	-	2
	暖房器具	10		5	3	2	1	8
	厨房器具	5		-	5	-	-	4
	その他	26		10	14	2	-	18
構造不適(機器)	39		-	39	-	-	13	

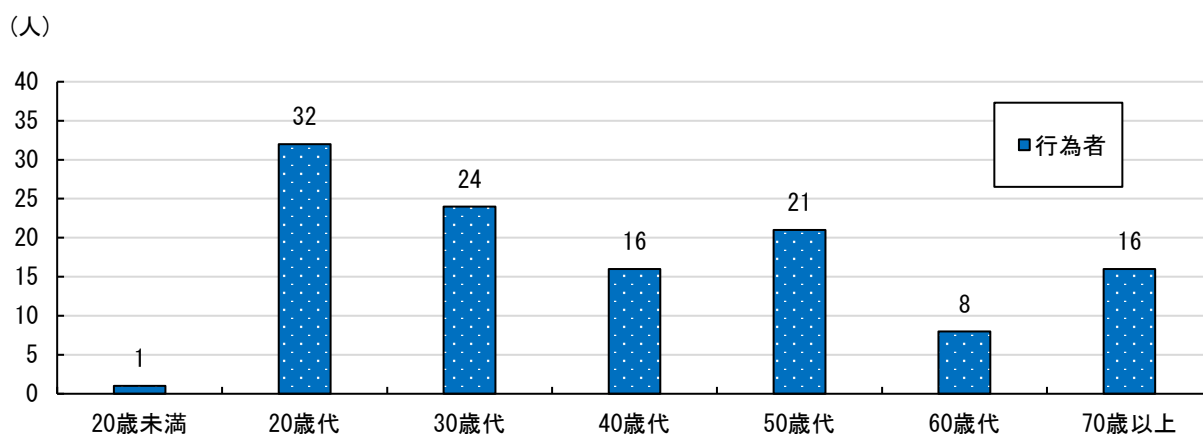


図2 行為者年代別発生状況

次に、令和3年中の火災を発生させた行為者118人（不明の4人を除く）を年代別で見ると、20歳代の32人が最も多く、次いで30歳代の24人となっています（図2）。

また、過去10年間のエアゾール缶等に起因する火災による死傷者は570人で、死者が3人、負傷者が567人発生しています。このうち中等症以上のけがを負った人（死亡を除く。）が4割以上を占め、顔や気道などにやけどを負っています（表2、表3）。

表2 エアゾール缶等による火災の死傷者発生状況（過去10年間）

年 別	火災件数 (件)	死傷者数合計 (人)	負 傷 者 数 (人)					死 (人)	中等症以上の負傷者数 (死亡を除く。)	中等症以上の割合 (死亡を除く。)
			小計	重篤	重症	中等傷	軽症			
平成24年	118	41	41	-	8	16	17	-	24	58.5%
平成25年	129	55	55	3	6	17	29	-	26	47.3%
平成26年	121	61	60	1	7	21	31	1	29	48.3%
平成27年	112	59	59	1	6	17	35	-	24	40.7%
平成28年	112	73	73	1	4	27	41	-	32	43.8%
平成29年	72	42	41	2	3	11	25	1	16	39.0%
平成30年	91	57	57	2	3	15	37	-	20	35.1%
令和元年	75	51	51	3	3	14	31	-	20	39.2%
令和2年	101	63	63	2	4	19	38	-	25	39.7%
令和3年	122	68	67	1	2	14	50	1	17	25.4%
合 計	1,053	570	567	16	46	171	334	3	233	41.1

軽 症・・・軽易で入院を要しないもの
 中等症・・・生命の危険はないが入院を要するもの
 重 症・・・生命の危険が強いと認められたもの
 重 篤・・・生命の危険が切迫しているもの

表3 エアゾール缶等による火災の受傷部位別負傷者数（過去10年間合計）

受 傷 部 位	熱 (火) 傷	擦過傷 (創)	気 道 炎	挫傷 (創)	咽 喉 炎	切 創	中 一 酸 化 炭 素 毒	眼 炎	そ の 他	合 計
顔 部	156	-	-	1	-	1	-	2	1	161
気 道	89	-	4	-	6	-	-	-	9	108
手部(手のひら)	76	2	-	1	-	3	-	-	-	82
前腕部(肘から先)	60	-	-	-	-	-	-	-	1	61
上 半 身	29	-	-	-	-	-	-	-	1	30
全 身	21	-	-	-	-	-	4	-	5	30
上腕部(肘から上)	25	1	-	-	-	-	-	-	-	26
頭 部	21	-	-	1	-	1	-	-	6	29
足 部	11	1	-	1	-	1	-	-	1	15
下腿部(膝から足首)	12	1	-	-	-	-	-	-	-	13
そ の 他	10	-	-	-	-	-	-	-	5	15
合 計	510	5	4	4	6	6	4	2	29	570

(2) 事故の発生状況



エアゾール缶等による事故[※]は過去10年間で101件発生しています。「その他」を除く過去10年間の事故原因を見ると、最も多いのは廃棄するためにエアゾール缶等に穴を開けた際に噴出した残存ガスに、ガスこんろ等の炎が引火してやけどを負うなどの事故で、31件発生しています（表4）。

※「事故」とは、火災に至らず、やけど等のケガを負ったものです。

表4 過去10年間のエアゾール缶等による主な原因別事故件数

主な原因	平成 24年	平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年	令和 2年	令和 3年	合計	割合 (%)
穴開け	10	1	3	-	5	2	6	-	-	4	31	30.7%
その他(廃棄)	-	2	2	1	2	3	-	-	-	-	10	9.9%
厨房器具近接	2	3	1	-	-	-	3	-	2	4	15	14.8%
暖房器具近接	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0%
装着不良	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	3.0%
その他 (取扱不適合含む)	6	4	6	3	7	7	2	3	1	3	42	41.6%
事故合計 (件)	20	10	12	4	14	12	11	3	3	12	114	100%

《近年発生したエアゾール缶等に起因する火災・事件事例》

！ 日常生活に潜む危険に注意してください

事例1 居住者が照明器具内にいる虫を駆除しようと、可燃性ガス（LPガス）を含むスプレー式の殺虫剤を噴射したため、カバー内に可燃性ガスが滞留し、照明の照度を切り替える際のスイッチの火花により引火し出火した。（建物ぼや火災）

事例2 居住者は自宅台所のシンクでスプレー缶を廃棄するためにガス抜きをしたところ、スプレーから抜けた可燃性ガスが使用していたガスこんろの火に引火して出火した。（建物ぼや火災）

事例3 エアゾール缶を廃棄するため、鍋を火にかけている隣でガス抜きをしていたところ、ガスに引火し、受傷した。
（20歳代 軽症）



！ 日常生活に潜む危険に注意してください

事例4 浴室内でパーツクリーナーのスプレーを使用して機器を洗浄中、突然炎が上がり、顔面と四肢にやけどを負った。
(50歳代 重症)

事例5 台所で鍋を火にかけていた際に、虫が鍋の上部に飛んできたため殺虫剤を噴射したところ、調理中の火がガスに引火し、受傷した。
(50歳代 軽症)



《カセットボンベ・エアゾール缶等の火災・事故を防ぐために》

- ① エアゾール缶には、LPGなどの可燃性ガスが噴射剤として使われている製品が多いので、使用前に必ず製品に記載されている注意書きを確認してください。(エアゾール製品は、本来の用途以外に使用しないでください。)
- ② やむを得ず使い切らずに捨てる時には、火気のない通気性の良い屋外で残存ガスがなくなるまで噴射し廃棄してください。
- ③ エアゾール缶等を廃棄する場合は、必ず中身を使い切り、各区市町村が指定するごみの分別を守って捨ててください。
- ④ エアゾール缶等は、厨房器具や暖房器具付近の高温となる場所や、直射日光と湿気を避けて保管し、厨房器具や暖房器具等の付近では使用しないでください。
- ⑤ カセットボンベは、カセットこんろ本体に正しく装着されていることを確認してから使用してください。
- ⑥ カセットこんろを複数並べて鉄板を載せること、カセットボンベカバーを覆うような大きな鍋等の使用や、練炭等の炭おこしは、燃料ボンベが過熱され、破裂する危険があるので絶対に行わないでください。
- ⑦ 流通しているガスバーナの中には、ネットモール等で極端な廉価で販売されている物もあります。そのような製品は、加工精度が低い、取扱説明書が不十分、問合せ先が不明瞭等、火災・事故発生のリスクが高い場合がありますので、十分ご注意ください。

※ 火災を防ぐためにガス抜きキャップを使ってエアゾール缶等の中身を出し切る廃棄方法を一般社団法人日本エアゾール協会のホームページで確認できます。

必ずお守りください



スプレー缶 (エアゾール缶)
カセットボンベは

**必ず中身を
使い切りましょう!!**

火災事故が多発しています!

中身の残ったスプレー缶、カセットボンベが
ごみに出されごみ収集車両や、ごみ処理施設で、
火災が発生しています。

スプレー缶の場合↓

正しいごみへの出し方 4step!

<p>step 1 ……→</p> <p>缶を手で握って 中身の有無を 確認してください。</p> 	<p>step 2 ……→</p> <p>「シャカシャカ」 「チャップチャップ」 など音がしたら、 まだ中身が残っています。 必ず使い切り ましょう。</p>	<p>step 3 ……→</p> <p>音がしなくても、まだ中身やガスが 残っている場合があります。 「ガス抜きキャップ」で 出し切ってください。</p> <p><small>※火災のない場所での正しいやり方で行ってください。 ※ガス抜きキャップがない場合は、 スプレーボタンを押して完全に空っぽにしてください。</small></p>	<p>step 4</p> <p>地域の ごみ出しルールを 守って出しましょう。</p> 
--	---	---	---

**中身のガスを出し切るために、
ガス抜きキャップを使いましょう!**

スプレー缶には**ガスを出し切るための
「ガス抜きキャップ」**が装着されています。

※商品によっては、**「ガス抜きキャップ(中身排出機構)」「ガス抜きキャップ(残ガス排出用)」「ガス抜きキャップ(ボタン)」**等の表記を行うものがあります。

▼但し、下記のスプレー缶(エアゾール缶)商品には、ガス抜きキャップは付いていません。
【例】●炭酸ガス、窒素ガス等の不燃性ガス使用商品(商品の表示をご覧ください)

ガス抜きキャップを使う時には…

中身を使い切ってから、
風通しが良く、火気のない屋外で、
風下に向けて、人などにかからないように
新聞紙などに吹き付けるなどをして、
周囲への飛散にご配慮ください。

※ガス抜きキャップについての正しい使い方、
廃棄に配慮の「ごみ分別ルール」を廃棄先にご確認ください。



ガス抜き
キャップ

※ガス抜きキャップの形状、使用方法は、種類によって異なります。
商品に記載された使用説明を必ずご覧ください。

カセットボンベには、「ガス抜きキャップ」は付いていません。

カセットこんろはヒートパネルを搭載しています。 (2007年4月生産分より)

ヒートパネルとは? (可燃ガス専用)

カセットボンベを適度に満たす事で、燃焼まで
強い火力を維持し、カセットボンベの中のガス
を最後まで使い切ることができます。

カセットボンベの処理
についてはご質問は、



一般社団法人日本ガス石油機器工業会
【カセットボンベお守りセンター】
☎0120-14-9996

●エアゾール製品処理対策協議会
一般社団法人日本エアゾール協会 (エアゾール製品処理対策協議会事務局 03-5207-9850) HP: <http://www.aia.or.jp/>
日本化粧品工業連合会 一般社団法人日本ガス石油機器工業会 日本家庭用殺虫剤工業会 生活衛生防除協会
社団法人緑の安全推進協会 日本エアゾール容器協会 日本エアリアル・ラッカー工業会 社団法人日本塗料工業会
日本オートケミカル工業会 芳香剤臭除臭剤協会 日本石油洗剤工業会 日本製薬団体連合会

●中央道正処理困難指定廃棄物対策協議会

※一般社団法人日本エアゾール協会ホームページから引用



一般社団法人
日本エアゾール協会ホームページ